

成長と効率の追求

— FY2017 へ向けて 50%利益成長とROE13%以上達成 —

基本方針

1. 新事業分野による成長加速
2. 既存事業の収益力強化
3. グローバル経営の推進

ライフ &
ヘルス事業

貴金属事業

環境保全事業

1. 新事業分野による成長加速

2014年度にグループ入りしたアメリカおよびカナダの金銀精錬事業(Asahi Refining)を核としてこれまでアジア地域中心に展開してきた海外事業のフィールドを一気に拡大し、本格成長に向けて戦略的施策ならびに投資を実施していきます。また、新たに立ち上げた「ライフ&ヘルス事業セグメント」においては、シニア層の増加や健康志向の高まりという日本社会でのニーズに応えるべく、積極的な投資を実施し、新たな成長ドライバーとして事業拡大を進めていきます。

2. 既存事業の収益力強化

新事業分野への積極的な戦略投資を可能にするためにも既存事業からのキャッシュフローを最大化する取り組みを強化していきます。経営資源の選択と集中をより一層徹底していくとともに、安定収益を確実なものとするべく、個々の事業における競争力強化策を再実行していきます。またこれまでのM&Aで獲得したグループ全体での経営資源を最適活用すべく、設備・人材・顧客・情報すべての面でAsahi Refiningも含めたグループシナジーの最大化により着実な利益貢献を実現します。

3. グローバル経営の推進

Asahi Refiningのグループ入りによりグローバルでのプレゼンス向上ならびに事業展開のチャンスが大きくなっているため、企業経営基盤をさらに進化させ、グローバル企業に相応しいレベルをめざして取り組みます。2015年6月には監査等委員会設置会社へ移行し、社外取締役を含む委員会による経営の外部視点ならびに株主視点での監視体制強化を中心としたコーポレートガバナンスの進化を実行します。また2016年度からの国際会計基準(IFRS)の任意適用も開始します。

CONTENTS

■成長を加速させる「企業活動」

| | |
|--------------|----|
| 第7次中期経営計画 | 01 |
| トップメッセージ | 02 |
| グループ概要 | 03 |
| コーポレート・ガバナンス | 05 |
| FOCUS2014 | 07 |
| 貴金属事業 | 09 |
| 環境保全事業 | 15 |
| ライフ&ヘルス事業 | 19 |

■地球環境に貢献する「環境活動」

| | |
|---------------|----|
| 環境マネジメント | 22 |
| 環境パフォーマンス | 23 |
| 環境会計 | |
| 天然資源節約効果・再資源化 | |
| 地球温暖化への取り組み | 24 |
| 省エネルギーへの取り組み | |

■資料編

| | |
|----------|----|
| グループのあゆみ | 25 |
| グループ一覧 | 27 |
| アサヒウェイ | 28 |



「第7次中期経営計画について」

2015年3月下旬、当社は2015年4月からスタートした3ヶ年の第7次中期経営計画を発表しました。スローガン「成長と効率の追求」を掲げ、最終年度(2018年3月期)の営業利益額を2015年3月期比で50%増額します。また、当社は従来から効率の良い経営に努力してきましたが、高い成長に伴って会社の規模が大きくなって、ROE13%以上を達成します。

成長を牽引するのは、ライフ&ヘルス事業と北米事業です。ライフ&ヘルス事業を構成する3社は、いずれも当社グループに参加してまだ3年未満の会社ですが、日本国内の健康志向の高まりを反映して、成長が期待できる事業分野にあります。また、アサヒアメリカホールディングス株式会社は2015年3月のM&Aにより誕生した会社ですが、金・銀の精錬事業では北米第1位の生産量を誇ります。当社がこれまで培ってきた貴金属リサイクル分野での営業・技術との融合を図ることにより、舞台を世界に拡大した事業を展開します。これらの新しい分野での成長を支えるためにも、既存の事業群は地道な努力の積み重ねにより、さらに効率の良い経営を目指します。

グローバルな経営体制を推進するには「コーポレートガバナンスの進化」が不可欠と考えます。2015年6月から社外取締役3名を含む監査等委員会設置会社への移行を、さらに、2017年3月期からは国際会計基準(IFRS)適用を計画するなど、「世界のアサヒ」への準備を着実に進めて参ります。

これまで継続してきた当社の価値観は「革新と挑戦」です。このアサヒスピリッツを共有する社員との「信頼と絆」を一層固めて、3ヶ年の間に遭遇する様々な事業環境の変化を乗り越えて、最終年度の連結営業利益額160億円を達成する所存です。

引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

代表取締役会長兼社長 山 謙 春

編集方針

本レポートは当社の考え方と前年度の取り組みをご紹介しますとともに、会社案内を兼ね備えたコミュニケーションツールとして作成しています。

免責事項

このレポートには、アサヒホールディングスグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の計画や見通し、経営計画に基づいた予測が含まれています。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいて作成しています。したがって、実際の業績や活動結果は、将来の経営環境の変化によって記述とは大きく異なる可能性があります。

グループシンボルマークについて

スパイラルをモチーフにしたグループシンボルマークは、事業特徴である「循環による環境保全」を追求していくという企業姿勢や、継続性、成長性を意味しています。また、上下に伸びる矢印は、先進的で躍動的な企業であることを表現しています。青・赤・緑の3色はそれぞれが「清らかな水・空」、「人間が活動をしていくエネルギー」、「美しい自然や森」を象徴しています。

 ASAHI HOLDINGS

3つの事業セグメントで、地球の資源と環境を守り、
人々の快適な生活と健康に貢献するアサヒホールディングスグループ。

アサヒホールディングス



アサヒプリテック

韓国アサヒプリテック

上海朝日浦力環境科技

台湾アサヒプリテック

朝世科技（合弁会社）

Asahi G&S

ジャパンウェイスト

日本ケミテック

JWガラスリサイクル

富士炉材

エコマックス

JWロジスティクス

イヨテック

太陽化学

共同化学

フジ医療器

インターセントラル

紡永工業

アサヒアメリカホールディングス

Asahi Refining USA

Asahi Refining Canada

(2015年3月31日現在)

わたしたちアサヒホールディングスグループは、「貴金属事業」「環境保全事業」「ライフ&ヘルス事業」の3つのセグメントで事業を展開しています。わたしたちはより透明性の高いコーポレートガバナンスの下、グループ会社24社、グループ社員2,080名の事業フィールドを日本・アジアにとどまらず、世界に向けて拡大していきます。

アサヒホールディングス役員一覧



寺山 満春

略歴

- 昭和39年3月 東京大学経済学部卒業
- 昭和39年4月 (株)クラレ入社
- 昭和48年7月 アサヒプリテック(株)入社
- 昭和56年5月 アサヒプリテック(株)代表取締役社長
- 平成21年4月 当社代表取締役社長
- 平成26年6月 当社代表取締役会長兼社長(現任)



武内 義勝

略歴

- 昭和53年3月 神戸大学法学部卒業
- 昭和53年4月 (株)兵庫相互銀行入社
- 平成11年4月 アサヒプリテック(株)入社
- 平成20年5月 ジャパンウエスト(株)代表取締役社長(現任)
- 平成21年4月 当社取締役(現任)



東浦 知哉

略歴

- 昭和59年3月 大阪大学人間科学部卒業
- 昭和59年4月 日本電気(株)入社
- 平成13年2月 アサヒプリテック(株)入社
- 平成22年6月 アサヒプリテック(株)取締役
- 平成23年4月 当社取締役(現任)
- 平成26年6月 アサヒプリテック(株)代表取締役社長(現任)



重政 啓太郎

略歴

- 平成元年3月 京都大学大学院工学研究科卒業
- 平成元年4月 (株)CSK入社
- 平成14年1月 (株)ファーストリテイリング入社
- 平成23年6月 アサヒプリテック(株)入社
- 平成25年6月 当社取締役(現任)
- 平成26年12月 アサヒアメリカホールディングス(株)代表取締役(現任)



川畑 一夫

略歴

- 昭和57年3月 東京大学大学院工学部卒業
- 昭和57年4月 新日本製鐵(株)入社
- 平成18年7月 新日鉄エンジニアリング(株)入社
- 平成20年7月 アサヒプリテック(株)入社
- 平成25年4月 アサヒプリテック(株)取締役(現任)
- 平成26年6月 当社取締役(現任)

監査等委員である取締役



森井 章二

略歴

- 昭和47年3月 早稲田大学商学部卒業
- 昭和47年4月 住友信託銀行(株)入社
- 平成15年6月 神戸空港ターミナル(株)代表取締役社長
- 平成21年6月 アサヒプリテック(株)社外取締役
- 平成22年6月 当社社外取締役
- 平成27年6月 当社社外取締役(監査等委員)/(現任)



田辺 幸夫

略歴

- 昭和56年3月 横浜市立大学商学部卒業
- 昭和56年4月 日本ビクター(株)入社
- 昭和63年1月 ソニー(株)入社
- 平成16年9月 アサヒプリテック(株)入社
- 平成21年4月 当社取締役
- 平成23年6月 当社監査役
- 平成27年6月 当社取締役(監査等委員)/(現任)



徳嶺 和彦

略歴

- 昭和57年3月 日本大学法学部卒業
- 平成5年4月 弁護士登録 銀座シティ法律事務所所属
- 平成8年4月 徳嶺法律事務所開設
- 平成21年4月 当社社外監査役
- 平成27年6月 当社社外取締役(監査等委員)/(現任)



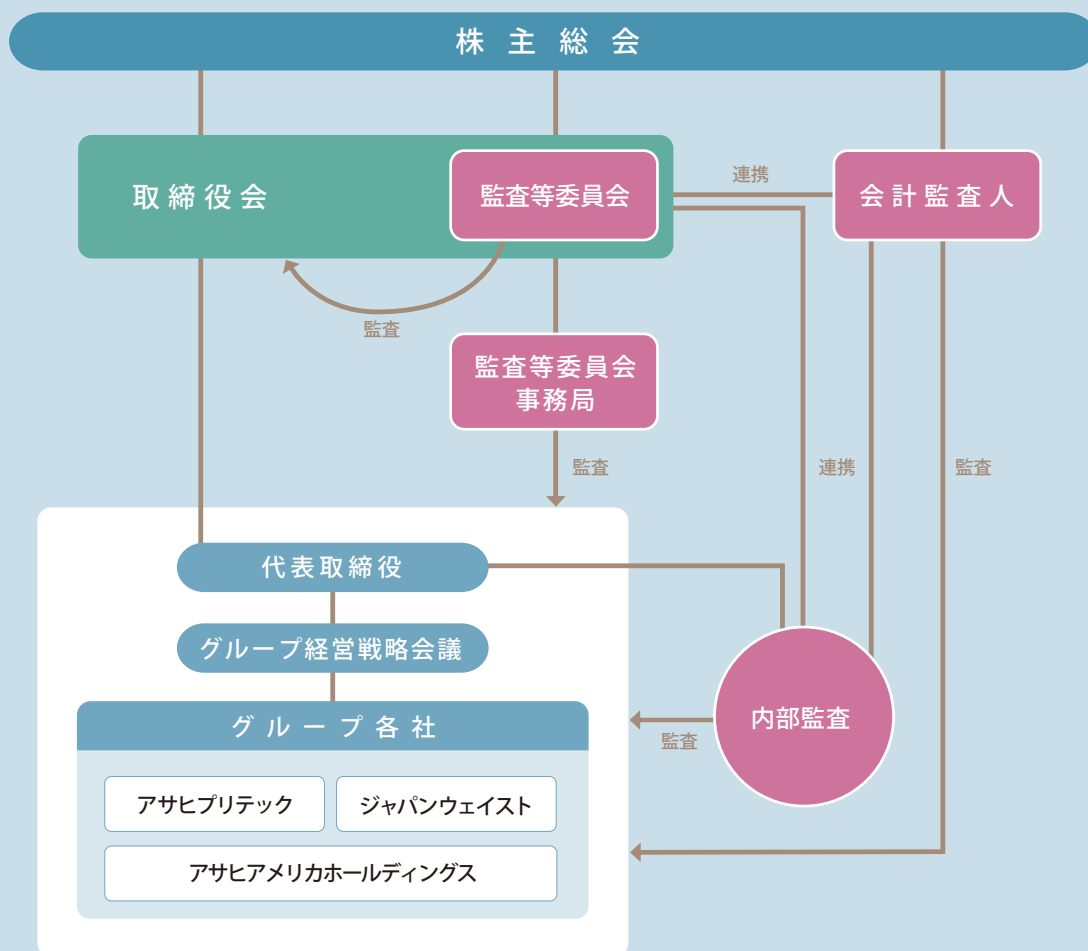
大久保 裕晴

略歴

- 昭和50年3月 一橋大学経済学部卒業
- 昭和50年4月 日本銀行入行
- 平成13年4月 日本銀行神戸支店長
- 平成19年4月 (株)池田泉州銀行顧問兼(株)自然総研代表取締役社長(現任)
- 平成27年6月 当社社外取締役(監査等委員)/(現任)

持ち株会社体制のもと、より強固なコーポレート・ガバナンスの構築とリスクマネジメントの推進に努めています。

監査等委員会設置会社移行後のガバナンス体制



監査等委員会設置会社

| | | |
|-------------|------------------|------------|
| 監査等委員でない取締役 | 人数 | 5名 |
| | 任期 | 1年 |
| 監査等委員である取締役 | 人数 (うち、社外取締役) | 4名 (3名) |
| | 任期 | 2年 |

ステークホルダーの皆様の期待に応えつつ、企業価値の最大化を図るために、持株会社であるアサヒホールディングスを核として、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。事業会社であるアサヒブリテックとジャパンウエイトを中心として、分野ごとの特性に応じた迅速な意思決定を行い、事業を推進し、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。各社がその責務を果たし、企業グループとしての持続的な成長と発展をめざしてまいります。

コーポレート・ガバナンス／リスクマネジメント

■ 内部統制システムの整備

取締役会内に社外取締役3名を含む監査等委員会を設置し、内部監査部門、内部統制部門と協力してコーポレート・ガバナンスの強化を図ります。また取締役会・監査等委員会・内部統制部門それぞれが有効に機能する体制を確立するとともに、コンプライアンスやリスクマネジメント、情報管理に関する規程を整備し全社的な取り組みを実施することで、内部統制システムの強化を推進しています。また、公正で健全な企業活動を遂行するために、グループの構成員として厳守すべき行動指針をアサヒウェイで定めています。

■ 事業継続計画（BCP）

大規模災害などのさまざまな要因によって当社グループの事業継続に必要な機能が低下するリスクがあります。被害があった場合も早期に機能復旧をめざすためのアクションプランとして事業継続計画を策定し、以下のような施策を推進しています。

- ・主要工場への自家発電機導入による補助電力確保
- ・生産資材の調達先を複数に分散化
- ・サーバーなど情報システムのバックアップ強化
- ・一部生産、処理工程の分散化（複数拠点による相互補完）
- ・機器設備類の耐震性強化
- ・化学物質等の漏液、拡散を防ぐための設備強化
- ・グループ全拠点での飲料水、食料等の備蓄
- ・安否確認、緊急連絡網の整備

■ 内部通報制度

社内で違法、不当な行為などの問題を早期に発見し解決するために、「アサヒホットライン（内部通報制度）」を設けています。社外の法律事務所を窓口とし、匿名での申告も受け付けています。通報案件に関しては、申告者や被申告者の人権やプライバシー保護に配慮した上で調査・是正措置を講じる体制を整備しています。

■ リスクマネジメント

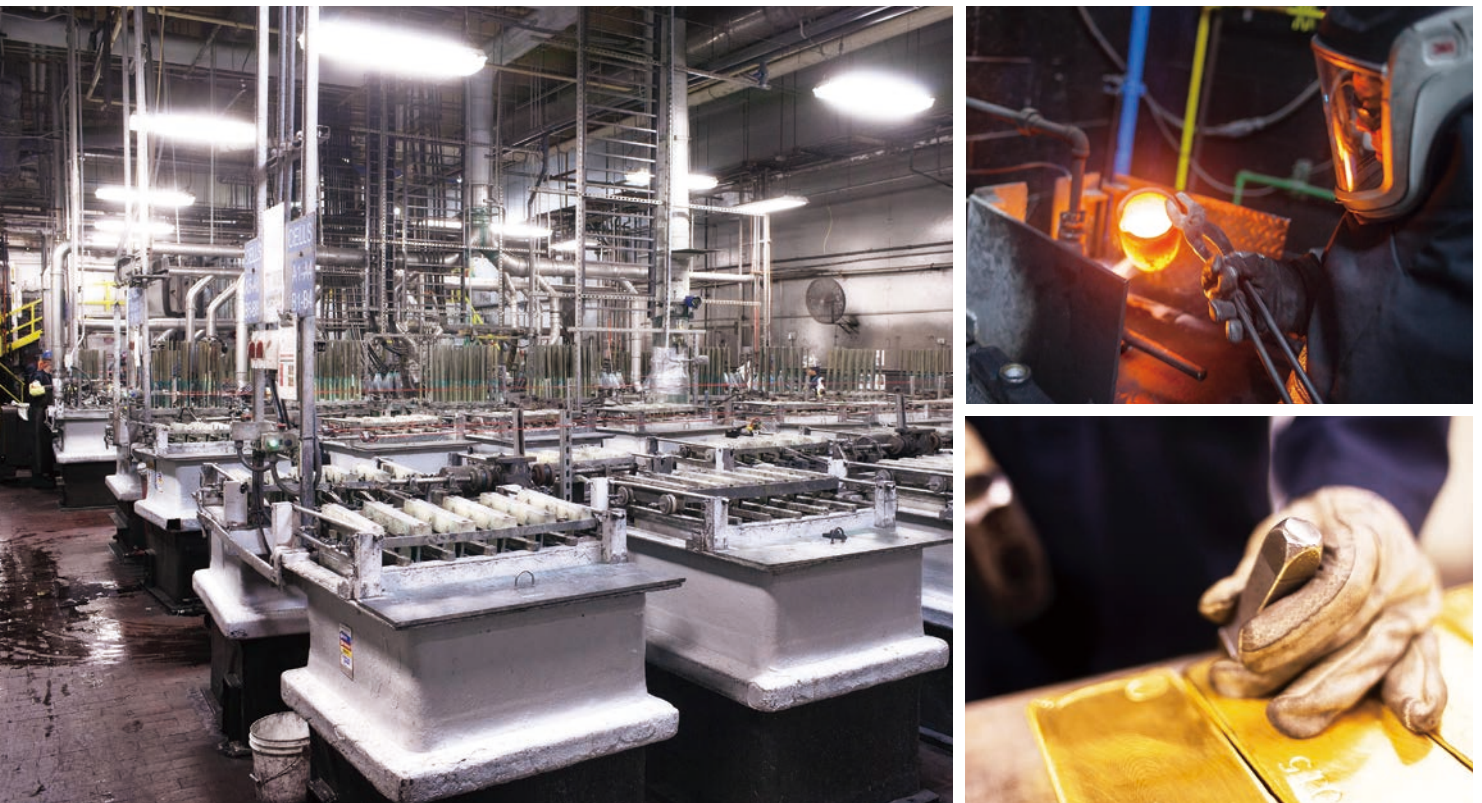
企業活動上に顕在・潜在するさまざまなリスクを適切に管理するために、総合的な視点でリスクを把握し、評価および対策を実施しています。リスクマネジメントを推進することで、リスクの発生を未然に防止するとともに、危機に発展した場合の損失を最小限に止めるよう努めています。

■ コンプライアンス

コンプライアンスは公正な企業活動を実現するための重要課題であると位置づけており、法令遵守および企業倫理の徹底に取り組んでいます。とりわけ、廃棄物の適正処理に関わる事業は環境関連法令や行政の許認可に基づいており、社員一人ひとりが常に高い遵法精神をもって行動することが求められます。コンプライアンスに関する規程やマニュアルを整備するとともに、社員教育や社員相互コミュニケーションの場において一人ひとりの遵法意識の向上に徹底して取り組んでいます。

持続的成長とその加速にむけて アサヒホールディングスグループは進化しつづけています。

第6次中期経営計画(2012年4月～2015年3月)の最終2014年度では、グループ入りした株式会社フジ医療器を中核に新たに「ライフ&ヘルス事業」を立ち上げるとともに、アメリカおよびカナダの金銀精錬事業買収を行い、今後の成長の加速に向けた基盤を作り上げることができました。



● Asahi Refiningのグループ会社化

アメリカおよびカナダの金銀精錬事業(Asahi Refining)のグループ会社化により、金の精錬シェアで北米ならびに世界でもトップクラスとなるグローバル事業を手にすることができました。同事業が長年培ってきた精錬技術、鉱山会社との強固な関係、圧倒的な規模によるコスト競争力は、わたしたちにとって強力な経営資源となります。

同事業が注力する鉱山由来の精錬事業に加えて、わたしたちがこれまで手がけてきた貴金属リサイクル原料からの精錬を最適に組み合わせることで、グローバルでの新たなビジネスモデルの創造が可能になります。

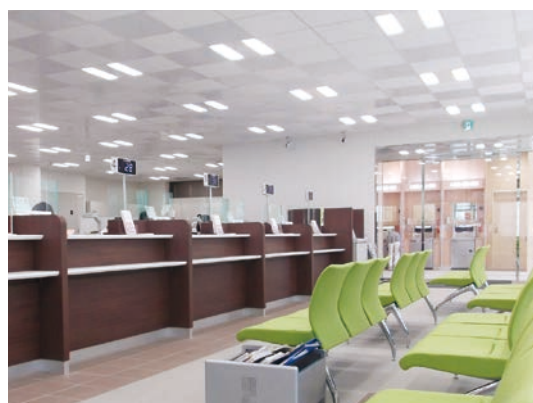


● 新セグメント「ライフ&ヘルス事業」の立ち上げ

高齢者人口の増加や若年層の健康志向の高まりにより、ヘルスケア市場は今後とも高い成長が期待されます。そのような背景から事業領域拡張の一環として、これまでの貴金属事業、環境保全事業の2つの領域に加えて、新たに「ライフ&ヘルス事業」を立ち上げました。本事業はフジ医療器(2014年7月グループ入り)、インターセントラル、紘永工業の3社で構成されます。



マッサージチェアの製造



空調システム(天井放射)

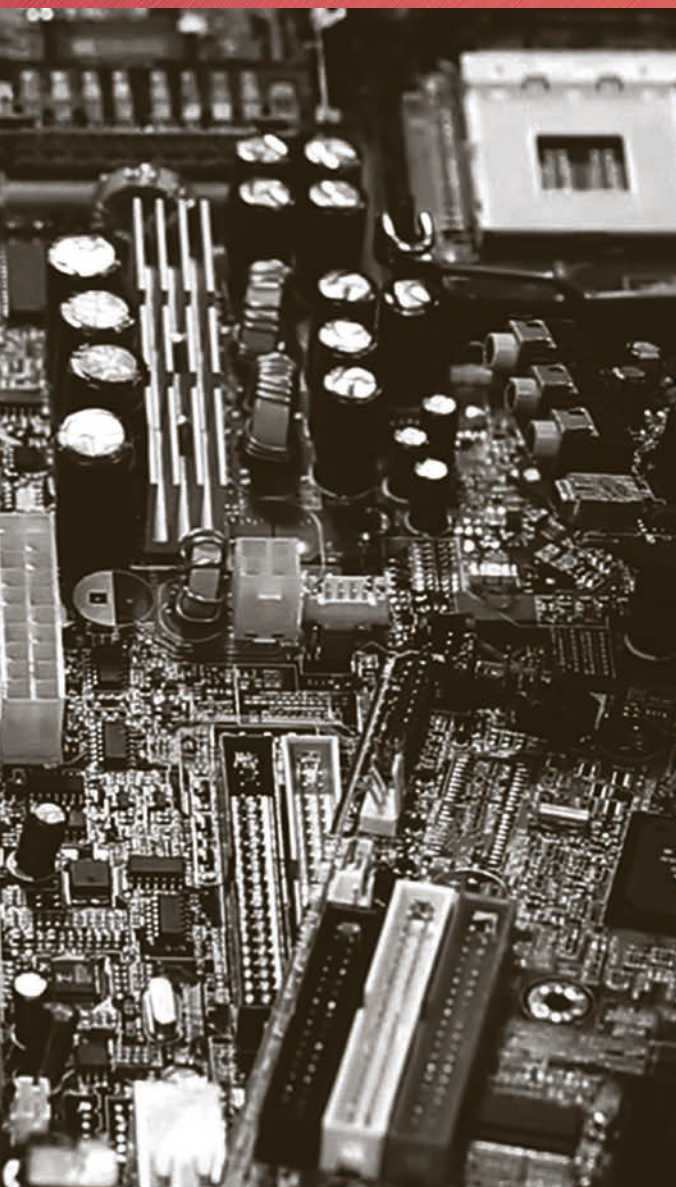
フジ医療器はマッサージチェア・補聴器・アルカリイオン整水器の製造・販売をしています。マッサージチェアでは国内最大手として高い商品開発力およびブランド力を誇っています。インターセントラルは快適性・省エネ性を備えた空調システム的设计・施工や電気ヒーターの製造・販売をしています。

当社グループが長年培った全国の病院・歯科医院等に対する営業網を活用したフジ医療器製品の販売など、互いの事業基盤を活かした新たな収益機会を創出し、グループ全体の成長性と収益性を一層高めていきます。

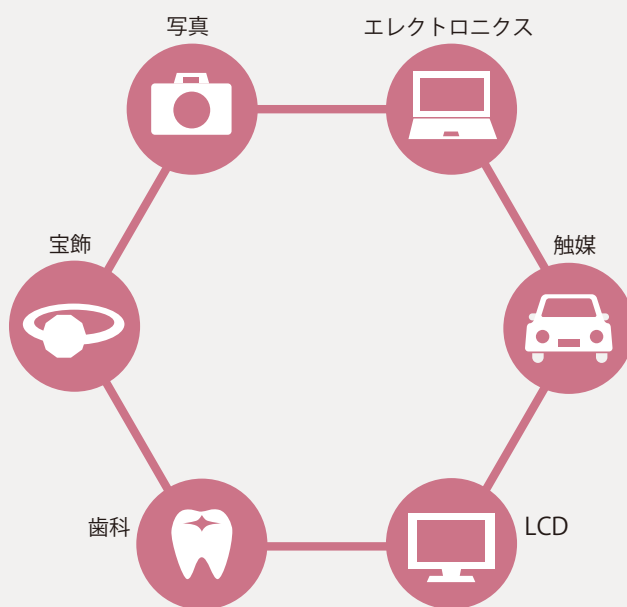
貴金属 事業

限りある資源を有効活用し
地球と社会のために貢献しています。

アサヒプリテックを核として、私たちはさまざまな分野から発生する貴金属・レアメタル含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・パラジウム・プラチナ・インジウムなどを、現代のモノづくりに欠かせない貴金属・レアメタル製品として再生することにより、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。



■事業領域



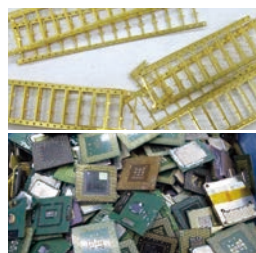
貴金属原材料の回収分野と地域は多岐にわたります。
全国をカバーする営業ネットワークと海外拠点を活かし、エレクトロニクス・薄型パネルディスプレイ・触媒・歯科・宝飾・情報機器・写真などのさまざまな産業分野から貴金属・レアメタル資源を効率よく回収しリサイクルしています。

01. 産業を支える 事業フィールド

あらゆる分野にまたがる事業領域で
社会のリサイクルニーズに応じていきます。

廃電子基板・工程端材の貴金属をリサイクルします。

金 銀 パラジウム プラチナ



【Eスクラップ】

電子・半導体産業では、パソコン・携帯電話などに使用される電子部品やプリント基板の製造工程などで、貴金属やレアメタルが使用されます。当社はさまざまな工程で排出される貴金属やレアメタルを卓越した技術で回収リサイクルしています。

歯科業界における資源循環サイクルを実現します。

金 銀 パラジウム プラチナ



【デンタル】

歯科医院や歯科技工所で使用される貴金属製品は、金銀パラジウム合金が主流ですが、種類により貴金属含有率はさまざまです。それらを回収・分析・報告まで当社独自のシステムで一元管理しており、歯科業界における資源循環サイクルを実現しています。

独自の回収技術により高い回収率を常に維持します。

金 銀 パラジウム

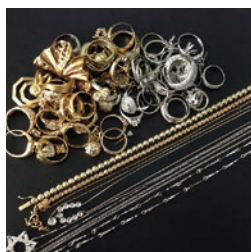


【表面処理】

表面処理では、メッキ液等に含まれる貴金属を中心としたリサイクル事業に取り組んできました。金・銀・パラジウムなどの貴金属回収に加え、レアメタルなどの再資源化や水処理・再使用など環境に配慮した回収技術を併せて提供します。

宝飾品製造団体からの業務委託も受けています。

金 銀 パラジウム プラチナ



【宝飾】

高度な分析・貴金属精製技術に基づき、流通過程における貴金属ジュエリーのリサイクルおよび製造過程で発生する各種分析回収品に対応しています。また、宝飾品製造団体から「貴金属スクラップの回収・分析」の業務委託を受けており、当社の長年の実績に対してお客様から厚い信頼をいただいております。

半導体装置部品の貴金属剥離と精密洗浄を実施しています。

金 プラチナ 銀 パラジウム



【精密洗浄】

半導体や液晶製造装置等の部品などをお客様からお預かりし、貴金属リサイクルと精密洗浄する事業を展開しています。

写真分野から銀のリサイクルをします。

銀



【感材】

写真店・現像所・医療機関などから排出される現像廃液・レントゲンフィルムなどを回収し、銀のリサイクルと無害化処理を行なっています。また、現像廃液は路盤材の原料としてリサイクルするゼロエミッションを実現しています。

自動車触媒には貴金属やレアメタルが含まれています。

パラジウム プラチナ ロジウム



【触媒】

触媒分野では、大気汚染防止法、自動車分野におけるNox・PM法など、排ガスに対する環境規制に従い、自動車触媒としてプラチナ・パラジウム・ロジウムの貴金属が使用されています。当社は独自の技術により、自動車触媒、化学触媒などからの貴金属やレアメタルのリサイクルに取り組んでいます。

液晶パネルディスプレイにはインジウムが使用されています。

インジウム

【LCD】

携帯端末や車載関連製品に使用される液晶パネルディスプレイの透明電極にはインジウムが使用されています。当社は、独自の高度な技術によりレアメタルのリサイクルに取り組んでいます。

独自の技術で 貴金属リサイクルの新たな 可能性を追求します。



スクラップから貴金属のみを 回収する卓越した技術

スクラップをその特性に応じた手法によりサンプリングし、精確な分析を実施する技術、またそこに含まれる貴金属のみを最高効率で回収する技術の長年にわたる蓄積があります。LBMA (The London Bullion Market Association) の技能検定試験において、国内外の40分析機関中、わたしたちの貴金属分析技術は世界トップレベルの成績を取っています。

つねに品質向上を追求する 研究・開発

これまで培った高精度の貴金属分析技術に加えて、常に新たな手法や技術による分析手法の確立による分析精度ならびに分析リードタイムの最適化をめざし、日々、研究・開発をつづけています。特に技術難易度の高い領域に関しては、大学や公的研究機関などとも多角的な連携を積極的に行っています。

貴金属の回収・リサイクルの工程

取引先

【デンタル分野】

【宝飾分野】

【感材分野】

【Eスクラップ分野】

【表面処理分野】

【洗浄分野】

【触媒分野】

【LCD 分野】

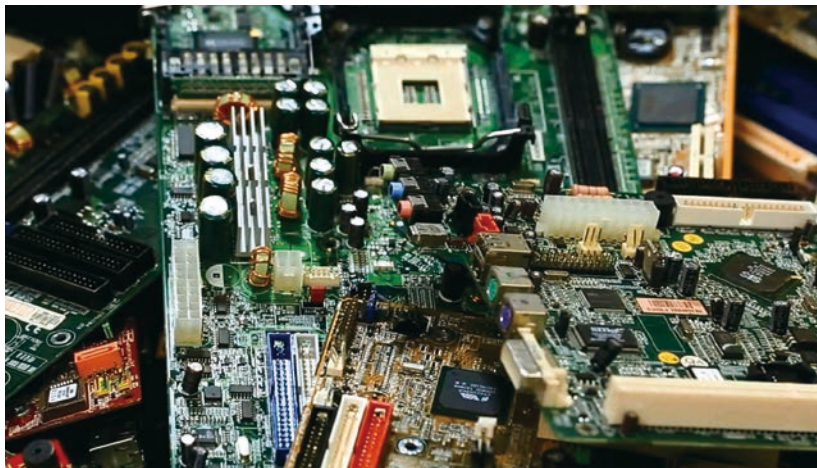
処理工程

検品

前処理

分析

精製・成形加工



徹底した高効率を実現する 最適処理・生産体制

回収先の事業フィールドにより異なる性状や混合物をともなったリサイクル原料に対して、最も効率的な貴金属の回収専用工場を日本ならびにアジアで展開しています。また、貴金属・レアメタルの種類に応じた最適な方法で効率よく精製する設備をフル活用し、お客様のニーズに的確に応えています。

グローバルレベルでの 相互技術移転・活用

貴金属事業においては、北米精錬事業買収によりグローバルレベルでの相互技術移転・活用が可能になりました。グループ内での技術融合・シナジーの最大化により、品質・コスト・納期においてお客様のニーズに応える「アサヒテクノロジー」のグローバルでの確立をめざしていきます。

製品化



確かな品質が国内外で高い評価を受けています。

アサヒプリテックは一般社団法人日本金地金流通協会の正会員で、金・銀・プラチナ・パラジウムの地金は、株式会社東京商品取引所の受渡供用品としてブランド認証を受けています。さらに、金・銀はLBMA(The London Bullion Market Association)、プラチナ・パラジウムはLPPM(The London Platinum and Palladium Market)のグッド・デリバリー・パーとして認定を受けており、確かな品質が世界のマーケットで高く評価されています。



当社が生産する金製品を世界中のお客様に安心してご利用いただくために、コンフリクトメタル^{※1}の不買・不使用に対して、OECDガイダンス・LBMAガイダンス等のガイダンスに準拠した管理体制を構築し、世界的な第三者機関による監査・認証を取得^{※2}しております。

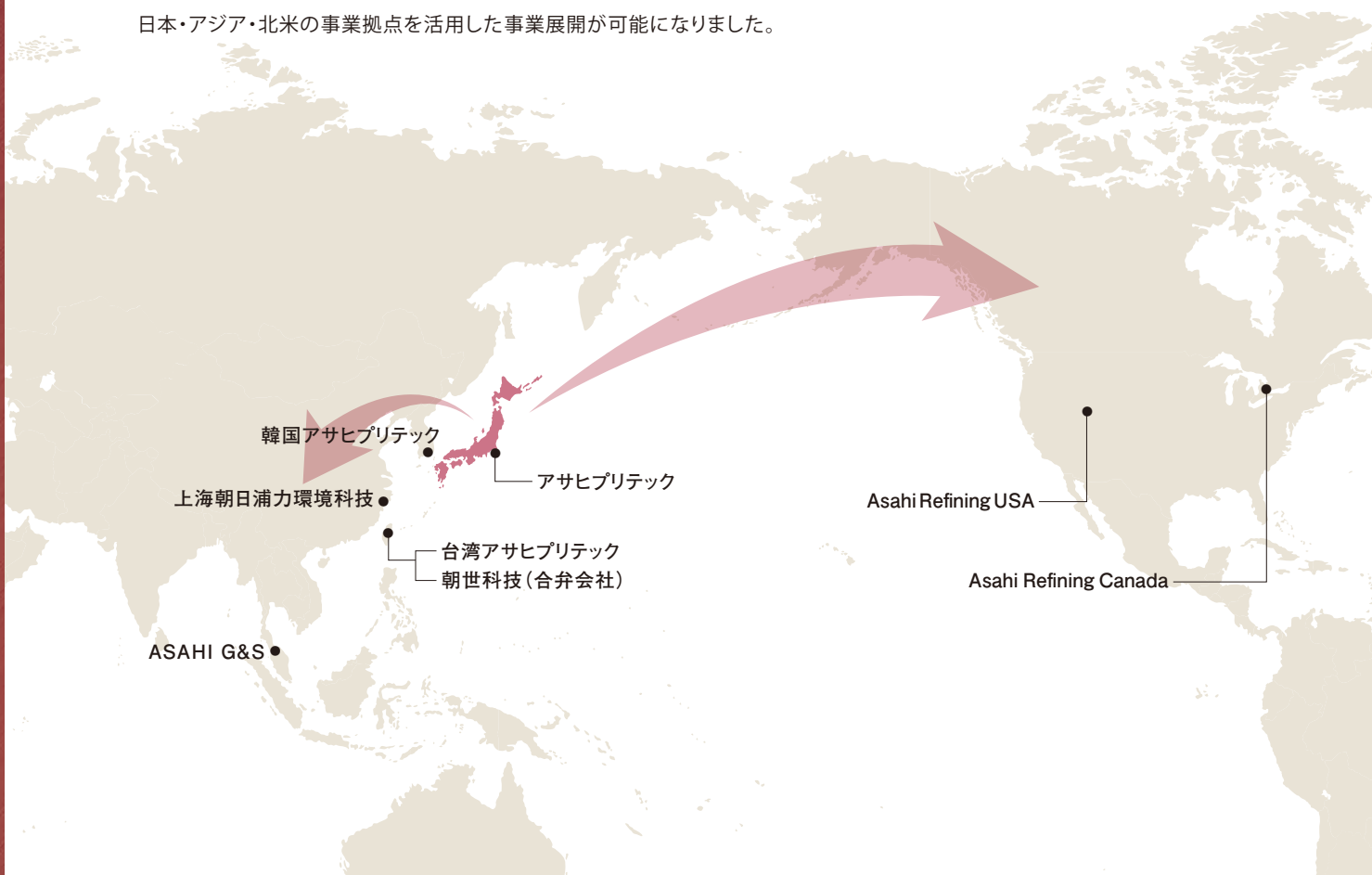
^{※1} コンフリクトメタル(紛争鉱物)とは、紛争、人身売買、奴隷、強制労働、児童労働、虐待、戦争犯罪などの非人道的行為やテロ活動、マネーロンダリングなどの不正行為が認められる国や地域に由来する鉱物を指し、これらの活動資金源になりにかねないものとして懸念されています

^{※2} URL : <http://www.conflictreesmelter.org>

日本およびアジアで構築した 世界最高の貴金属関連技術と広範なネットワークは、 エリア・技術領域の両面で拡大・進化しつづけます。

GLOBAL BUSINESS LOCATIONS アジアと世界に広がる事業拠点

わたしたちアサヒホールディングスグループは、貴金属事業において、1994年からアジア拠点展開をすすめ、世界の工場としてのアジア地域においてエレクトロニクス業界を中心とする産業分野からの貴金属リサイクル事業を、日本で培った技術をベースに、現地市場に根ざしたやり方で立上げ・拡大を行ってきました。2014年度に北米精錬事業(Asahi Refining)の拠点を手にしたことにより、エリア的に拡大するだけでなく、日本・アジア・北米の事業拠点を活用した事業展開が可能になりました。



韓国アサヒプリテック



上海朝日浦力環境科技



ASAHI G&S



台湾アサヒプリテック



RESEARCH & DEVELOPMENT テクノセンター

独自の研究開発を追求する「テクノセンター」

「貴金属・レアメタルのリサイクル」と「産業廃棄物の無害化・再資源化」に向けて、独自の研究開発と分析技術開発を進めてきました。その中枢が神戸ハイテクパーク内に開設された「テクノセンター」です。品質向上と技術革新を通じて社会に貢献する企業としてさらなる飛躍をめざします。



研究開発

常にニーズを先取りし、蓄積された要素技術の応用と新技術の開発を通じて、新製品、新事業の創生に努めています。

- ① 貴金属・レアメタルの分離・精製技術
- ② 環境保全・再資源化技術
- ③ 貴金属成形加工技術
- ④ 中性電解水応用技術



分析

当社グループ分析機能の中枢として、最新分析機器と高度な分析技術で多岐にわたる企業活動を支援しています。また、お客様の信頼を確実に保持し、高める役割を担っています。

- ① 新規分析技術の開発
- ② 各工場・営業所分析グループの技術指導
- ③ 貴金属製品や歯科用合金の品質分析
- ④ 工場排水などの環境分析
- ⑤ 環境計量証明事業



エンジニアリング

最先端技術を駆使し、各分野のエキスパートが、国内拠点・海外拠点設備の設計・製作・施工・メンテナンスを行い、設備の安全かつ安定的な操業の支援をしています。

- ① 設備および建屋の設計・製作・施工・管理
- ② 既存設備の維持管理・メンテナンス
- ③ 顧客先への貴金属回収設備の設置・アフターサービス



環境保全 事業



廃棄物処理のエキスパートとして
持続可能な循環型社会の実現に
取り組んでいます。

私たちは各種廃棄物の無害化・適正処理を行い、地球環境問題の解決に貢献しています。アサヒプリテックおよびジャパンウェイスト傘下のグループ会社が長年それぞれの分野で培ってきた独自技術の提供を通して、お客様の多様なニーズにお応えします。

■事業領域



■当社グループの取得ライセンス（2015年3月31日現在）

- 産業廃棄物収集運搬業許可 全ての都道府県・政令市
- 産業廃棄物処分業許可 15都道府県9政令市
- 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 全ての都道府県・政令市
- 特別管理産業廃棄物処分業許可 12道県8政令市
- 優良産廃処理業者認定* アサヒプリテック：全ての都道府県・政令市
ジャパンウェイスト：26都道府県2政令市

* 2011年4月に廃棄物処理法が改正され、優良産廃処理業者認定制度が創設されました。事業の実施に関する能力や実績など、より厳しい基準に適合する業者を都道府県・政令都市が認定する制度です。グループ全体で、優良産廃業者認定の取得を進め、お客様が安心して委託できる体制を整えています。

01. リサイクルを支える 事業フィールド

さまざまな廃棄物の ワンストップソリューションを提供します。

【廃油・汚泥リサイクル】



さまざまな廃油や廃液を分析結果をもとに最適な配合で混合、成分調整を行い、代替燃料としてリサイクルしています。また、汚泥や燃え殻などは成分や水分を調整し混練することでセメント原料としてリサイクルしています。さらに受け入れ時と出荷時には徹底した分析を行い、マテリアルリサイクル品としての品質維持管理にも努めています。

【廃木材リサイクル】



建築物の解体現場などで発生する廃木材を破砕し、破砕後の木材チップをバイオマス発電燃料やパーティクルボード材料としてリサイクルしています。

【耐火レンガリサイクル】



ガラス製造炉の窯解体およびごみ焼却炉などの定期修繕工事で発生する廃耐火レンガは、精緻な分別を行い、耐火レンガや路盤材としての再利用を図るなどリサイクルを意識した処理を行っています。

【ガラスリサイクル】



ガラスメーカー、サッシメーカー、自治体などから板ガラス、ガラス瓶などを回収しています。回収した板ガラスくず、ガラス瓶などは自社工場を選別破砕後、高品位のガラスカレットとして再生・販売しています。ガラスリサイクルを通じて、鉱物資源の枯渇防止や環境負荷低減を図っています。

【有機性廃液・汚泥リサイクル】



食品製造工場、レストランチェーンなどから排出される有機性廃液は、中和・脱水を行います。ろ液は微生物処理で排除基準値未満まで浄化し、下水道放流しています。汚泥は、発酵・熟成プラントで堆肥化することにより農家の方々に有機リサイクル肥料として有効利用いただいています。

幅広い分野で高付加価値サービスの提供に努め 各分野に特化した処理技術で、多様化・高度化する お客様のニーズに迅速にお応えします。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物のほとんどの品目について収集運搬および中間処分の許可を取得し、適正かつ迅速に処理できる体制を構築しています。さらに、産業廃棄物の卓越した無害化処理技術とゼロエミッションの確立を進め、環境分野におけるグループ内ワンストップソリューションの実現をめざしています。



03. 信頼を生み出す テクノロジー

独自の技術で 新たな可能性を 追求します。



卓越した技術でさまざまな処理を実現

● 特定有害廃酸・廃アルカリ・廃試薬処理

工場や事業所から排出される廃酸、廃アルカリや大学・民間企業の実験室や研究所で不要になった廃試薬は適正処理が必要です。これらの多品種にわたる廃棄物は、徹底した安全管理体制のもと当社グループが長年培ってきた技術を駆使し、各工場専用ラインで無害化処理をしています。また、当社グループの分類基準に沿って容器に分別保管し、収集運搬および保管時の異常反応発生防止措置を行っています。廃試薬瓶のラベルが剥れ、内容物が不明な廃試薬についても当社で分析し、適正処理のサポートを行います。

● 有害物のコンクリート固化化処理

焼却処理施設などから発生する燃え殻、煤塵、汚泥や有害物（ヒ素・鉛・クロム・セレン等の重金属類、ダイオキシン類等）を含む廃棄物の中にはリサイクルに適さないものがあります。このような廃棄物から有害物が溶出しないようにコンクリート固化化（不溶化）処理しています。強い酸性条件下でも有害物を自然界に溶出させない独自の設備と技術を有しています。

● 廃酸・廃アルカリ・汚泥の高速微生物処理

工場や事業所からの廃液については有害物質を取り除いた後、窒素・リンを含む場合でも、微生物処理等の独自技術によって排除基準値未満まで浄化し、下水道放流しています。特にエネルギー消費や二酸化炭素排出量は、他の処理方式との比較で低くなっています。また、廃液の中和・脱水後の汚泥は、非鉄金属や鉄鋼の原料として再利用されています。一部リサイクルできない汚泥は、埋立処分されます。

● 有害廃棄物の洗浄処理

半導体メーカー、電子部品メーカー、研究所などの半導体製造装置・各種研究設備に付着した有害物質を洗浄処理しています。洗浄処理後の装置や設備は素材分別、再資源化することで環境負荷低減を図っています。

廃棄物リサイクルの工程

収集運搬

● 産業廃棄物

廃酸、廃アルカリ、廃油、汚泥、廃プラスチックなど17種類

● 特別管理産業廃棄物

特定有害物質を含む廃酸、廃アルカリ、廃油、汚泥、感染性廃棄物など12種類

● 中和

● 凝集沈殿

● 濃縮

● 脱水

● シアン分解

● 油水分離

● 焼却

● 中和・混合

● 乾燥

● 洗浄

● 選別・圧縮・破碎

● 混練

● コンクリート固化化

中間処分



廃液処理施設



焼却炉

リサイクル

埋立

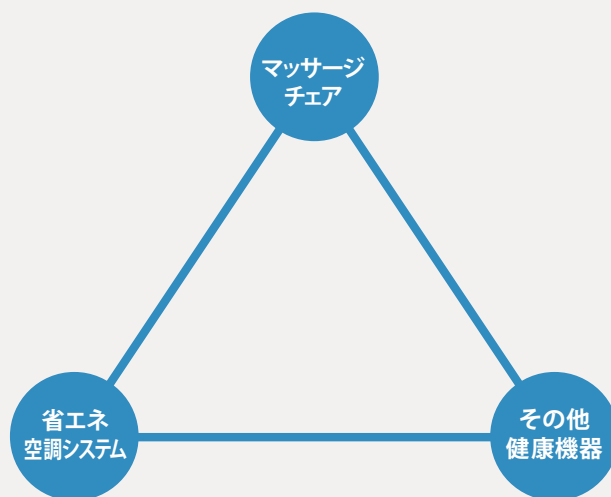
ライフ & ヘルス 事業

「快適な生活と健康を維持する
機器および設備等の提供」により
健康志向の高まり・高齢化社会の
進展に対する社会のニーズにお応えします。

人々の快適な生活と健康に貢献する – わたしたちアサヒホールディングスグループは、日本で進展する健康志向ならびに高齢化社会のニーズに応え、人々の快適な生活と健康を実現するために、2014年度にグループ入りしたフジ医療器を核として、グループ3社のネットワークにより、ライフ & ヘルス事業の成長をめざしていきます。持続的な成長に向けたアサヒホールディングスグループの第3の柱として、グローバル市場も含めた積極的な事業展開をおこなっていきます。



■ライフ&ヘルス



ライフ&ヘルス事業のネットワーク

私たちは、北は北海道から南は沖縄まで国内に38ヶ所の拠点をもっています。3社の事業基盤の融合を図り、最大限のシナジー効果を創出し、お客様の快適な生活環境をサポートするライフヘルスソリューションを提供していきます。

株式会社フジ医療器

- 2014年7月グループ入り
- 本 社：大阪府大阪市
- 工 場：大阪府南河内郡
- 営業拠点：全国24ヶ所
- 事業内容：マッサージ器、補聴器、家庭用電気治療器、アルカリイオン整水器等の健康機器の製造・販売



大阪工場



アルカリイオン整水器



補聴器



フジ医療器が1954年に世界で初めて量産化したマッサージチェア第1号が2014年8月に「機械遺産」に認定されました。

株式会社インターセントラル

- 2012年7月グループ入り
- 本 社：岩手県滝沢市
- 工 場：岩手県滝沢市・北海道千歳市
- 研 究 所：岩手県滝沢市
- 営業拠点：千歳市、滝沢市、秋田市、仙台市、東京都千代田区、名古屋市、野々市市、大阪市、福岡市
- 事業内容：放射冷暖房システムの設計・施工、電気暖房器製造・販売



施工例



空調システム(天井放射)



空調システム(床放射)

紘永工業株式会社

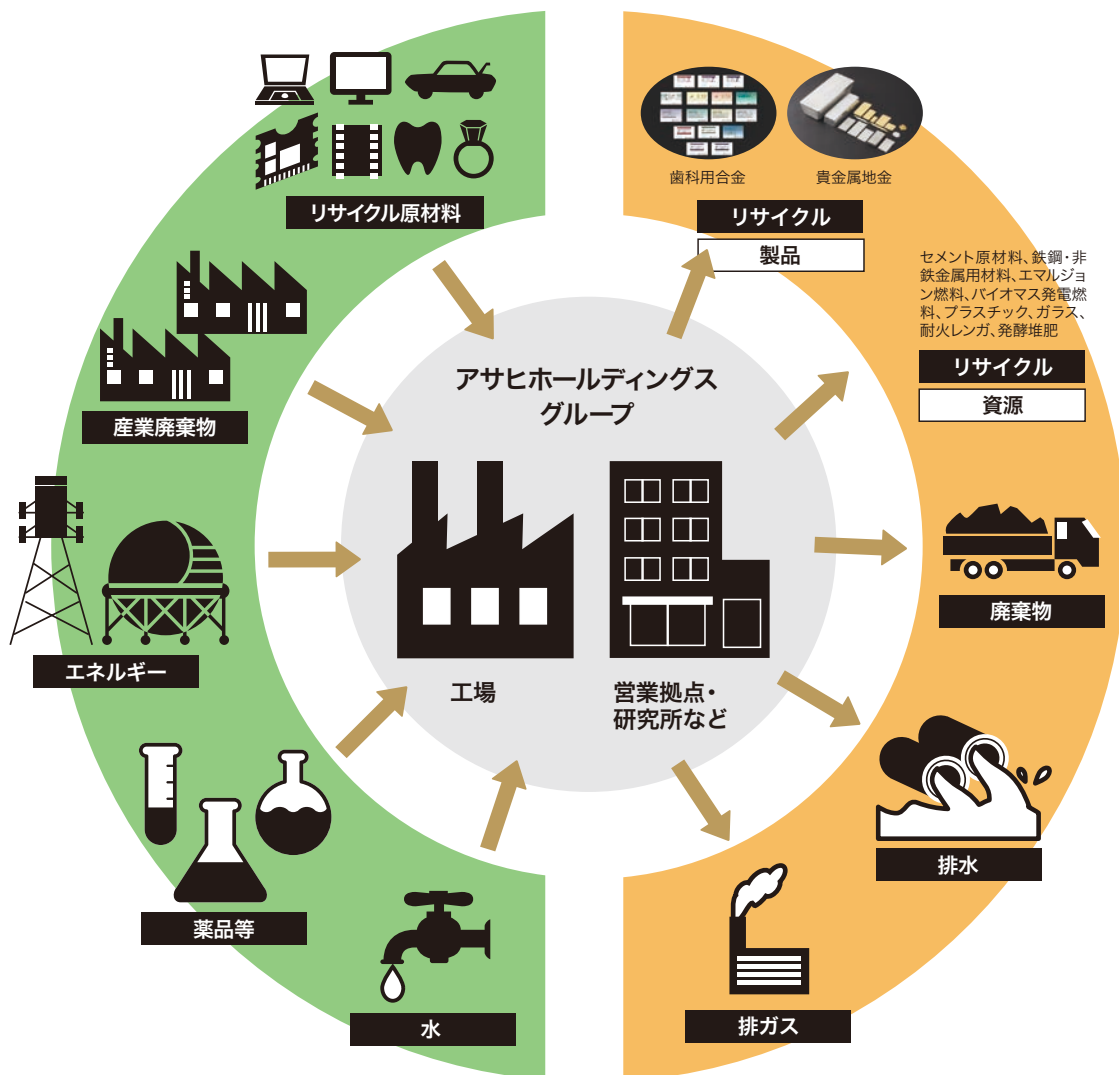
- 2014年3月グループ入り(インターセントラルの子会社へ)
- 本 社：神奈川県横浜市
- 営業拠点：東京都千代田区
- 事業内容：消防・空調・衛生設備の設計・施工・保守



環境活動

アサヒホールディングスは事業活動を通じて地球環境に貢献する循環を生み出します。

当社が環境分野のリーディングカンパニーとしてグローバルに企業活動を展開するためには、環境活動においても先進的であるべきだと考えています。ISO14001活動の積極的推進はもとより、地球温暖化への取り組み、省エネルギーへの取り組みなど、環境活動においても当社が継続して掲げる価値観「革新と挑戦」を実践し、ステークホルダーの皆様に安心して頂ける企業をめざしています。



環境方針

貴金属・希少金属リサイクル業と産業廃棄物処理業を中心とした各事業を通じて、地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献します。

- (1) すべての事業活動において、環境負荷軽減のために、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減およびリサイクルを図ります。
- (2) 限られた地球資源をより一層有効に活用するために、貴金属・希少金属を中心とした資源のリサイクルを推進します。
- (3) 産業廃棄物の収集運搬・中間処理を適切かつ安全に行い、環境汚染を防止します。
- (4) 自然との調和、地域社会との共生を大切にし、関連する環境の法規制および当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- (5) 環境目的・目標を定め、定期的に見直し改善します。
- (6) 社員が一市民としても環境保全活動に理解を深め、かつ行動するように教育・啓発を行い、意識の向上を図ります。

この環境方針は全従業員および組織のために働く全ての人へ周知するとともに、社外にも公開します。

ISO14001 認証取得状況

アサヒブリテックでは、2000年のテクノセンターを皮切りに、これまで22拠点でISO14001の認証を取得してきました。これにより、当社グループ全体では、9社34拠点での認証取得となりました。今後も、事業との一体化をキーワードとして、維持管理および改善活動に注力していきます。

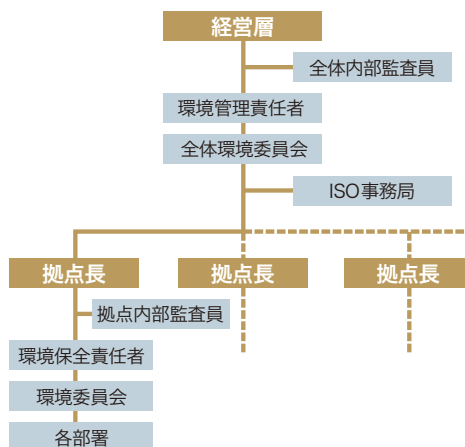


ISO14001 認証登録書

環境マネジメント推進体制

環境保全の理念を定めた「環境方針」に基づき、「全社環境目的・目標（年間計画）」を策定します。これを受け、ISO14001認証を取得している事業所では、「拠点環境目的・目標（年間計画）」を策定し、業務に密着した環境保全活動を行います。また、各拠点の環境委員会は環境法規制の遵守、計画の見直し、環境教育等を審議し経営層に報告しています。環境マネジメントシステム（以下、EMS）はISO事務局が統括していますが、各事業所に環境保全責任者を設置し、推進の徹底を図っています。

ISO14001 統合認証取得拠点運営体制



ISO14001 環境監査

ISO14001活動の規格適合状況は、定期的に外部審査機関による審査を受けています。また、各拠点においてもEMSが適切に運用されていることを確認するために、内部環境監査を年1回以上実施しています。



外部審査機関による定期審査

環境パフォーマンス

貴金属、環境保全、ライフ&ヘルスの事業活動で使用したエネルギー、資源(水)、薬品等をINPUTとし、事業活動を行うことで排出する環境負荷をOUTPUTとして記載しています。

生産の効率化や処理のプロセスの見直しなどにより、エネルギー消費量の削減を進めましたが、ライフ&ヘルス事業でのM&Aや、電気事業者のCO₂排出係数が引き上げられたことにより、当社グループ全体でのCO₂排出量は、前年度に比べ増加しました。

INPUT

| | 単位 | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 電力 | MWh | 24,097 | 23,816 | 23,035 | 22,963 | 23,292 |
| 重油 | kl | 1,465 | 1,192 | 891 | 739 | 681 |
| 灯油 | kl | 440 | 440 | 451 | 449 | 474 |
| 軽油 | kl | 3,216 | 3,200 | 3,176 | 3,241 | 3,430 |
| ガソリン | kl | 899 | 914 | 928 | 917 | 1,948 |
| 都市ガス | 千m ³ | 64 | 27 | 13 | 12 | 13 |
| LPG | t | 20 | 22 | 19 | 13 | 13 |
| 水 | 千m ³ | 378 | 364 | 336 | 322 | 342 |
| 薬品等 | t | 13,189 | 14,191 | 13,140 | 12,688 | 14,408 |

OUTPUT

| | 単位 | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|--------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| CO ₂ 排出 | t | 24,798 | 23,863 | 25,474 | 26,946 | 29,992 |
| 排水 | 千m ³ | 246 | 251 | 217 | 191 | 214 |
| 廃棄物 | t | 16,249 | 17,719 | 16,048 | 15,517 | 17,257 |

※排出基準値未達まで浄化

環境会計

環境経営の推進にあたり、2005年度から環境会計を導入し、環境保全に関するコストを公開しています。環境省の環境会計ガイドラインに沿って作成しています。

● 2014年度 環境保全コスト

(単位：百万円)

| | 分類 | 主な取り組み内容 | 費用額 | 投資額 |
|--------------|---------------|-----------------------------|-------|------|
| 1. 事業エリア内コスト | (1) 公害防止コスト | 排ガス処理設備、排水処理設備の維持管理等 | 398.7 | 26.5 |
| | (2) 地球環境保全コスト | 省エネルギー活動(節電、車両燃費向上等) | 22.7 | 52.7 |
| | (3) 資源循環コスト | 産業廃棄物処理委託 | 224.3 | 0 |
| 2. 上・下流コスト | — | — | 0 | 0 |
| 3. 管理活動コスト | — | ISO14001管理活動 環境情報開示コストなど | 101.8 | 0 |
| 4. 研究開発コスト | — | 貴金属精製工程の合理化 廃棄物の埋め立て量削減 | 50.0 | 0 |
| 5. 社会活動コスト | — | 地域の清掃活動 | 2.8 | 0 |
| 6. 環境損傷対応コスト | — | — | 0 | 0 |
| 総計 | — | — | 800.3 | 79.2 |

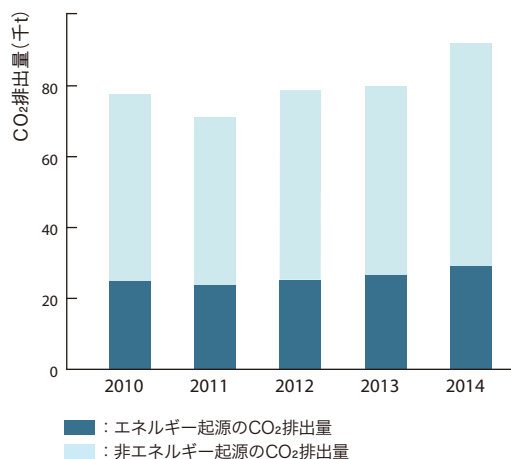
天然資源節約効果・再資源化

各種廃棄物の再資源化により、天然資源(貴金属・非鉄金属鉱石、蛭石、珪石、森林、化石燃料など)の採掘や伐採を節減し、地球環境の保全に貢献しています。また、各企業でゼロエミッションの取り組みが推進されリサイクルできる廃棄物が減少傾向にある状況下、廃油の代替燃料化促進や廃棄物の素材分別向上などにより2014年度のリサイクル率は77.3%になりました。

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>■ 貴金属鉱石 (貴金属リサイクル)</p> <p>2,338.7千t/年</p> | <p>■ 化石燃料 (廃棄物有効利用)</p> <p>12.2千t/年</p> | <p>■ 森林 (建設廃材リサイクル)</p> <p>15.2千t/年</p> | <p>■ ガラスカレット (瓶、廃板ガラス)</p> <p>91.5千t/年</p> |
| <p>■ 発酵堆肥 (食品廃棄物・有機汚泥)</p> <p>14.4千t/年</p> | <p>■ 木材チップ (建設廃材)</p> <p>15.2千t/年</p> | <p>■ 非鉄金属原料 (金属含有廃液)</p> <p>4.5千t/年</p> | <p>■ 耐火レンガ、路盤材 (炉廃材)</p> <p>3.7千t/年</p> |
| <p>■ 金属くず (建設廃材、OA機器)</p> <p>2.8千t/年</p> | <p>■ セメント用燃料・原料 (廃プラスチック、廃油・廃液、木材チップ、汚泥)</p> <p>4.1千t/年</p> | <p>■ 廃白土 (無機汚泥、木くず)</p> <p>18.0千t/年</p> | <p>■ エマルジョン燃料 (廃油、廃アルカリ)</p> <p>3.3千t/年</p> |

地球温暖化への取り組み

● 温室効果ガス排出量 (実排出量*: 生産、輸送、事務所)



当社グループ全体の2014年度CO₂排出量は、前年度比で9%増の91千tとなりました。

非エネルギー起源のCO₂排出量は、産業廃棄物の焼却処理量が増加したことにより、前年度比で約8%増加しました。

エネルギー起源のCO₂排出量は、昨年度、新たなグループ会社が加わったことにより、エネルギー消費量が増え、前年度比で約10%増加しました。

※温室効果ガス排出量は、温帯法に準拠

● 太陽光発電システムについて



モニターによる発電状況の紹介

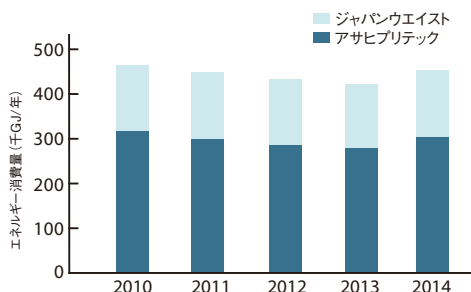
アサヒプリテックの阪神事業所では、太陽光発電システムの全発電量を関西電力へ売却しています。2014年度の総発電量は115千kwhであり、CO₂削減量に換算^{※1}すると、57.5千tに相当し、スギの成木約4,100本^{※2}の年間吸収量と同じくらいになります。

※1 0.5kg-CO₂/kwhで換算

※2 14kg-CO₂/本で換算

省エネルギーへの取り組み

● エネルギー消費量 (エネ起源: 生産、輸送、事務所など)



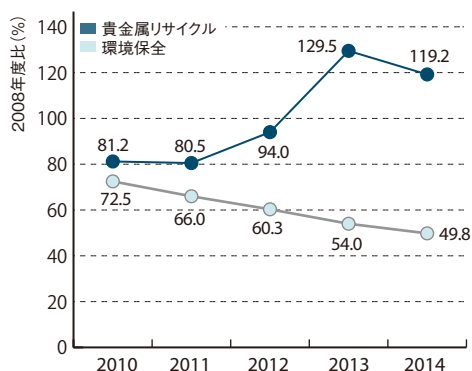
当社グループ全体のエネルギー消費量は、前年度より約10%増加しました。アサヒプリテックでは、新たに事業所を開設しましたが、次のような施策により、エネルギー消費量を前年度比で約1%削減しました。

実施事例

- 照明のLED化推進 (愛媛工場、関東営業所等)
- エアコン更新 (テクノセンター、愛媛工場)

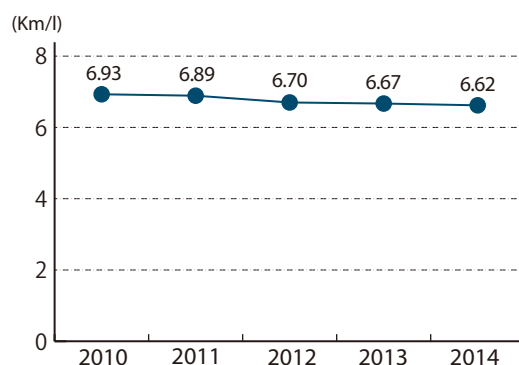
ジャパンウエストでは、新たなグループ会社が加わったほか、処理量の増加にともない、エネルギー消費量が前年度比で約30%増加しました。

● エネルギー原単位 2008年度比率 (アサヒプリテック)



貴金属リサイクルセグメントの2014年度エネルギー原単位は生産量の増加と、主要工場での省エネへの取り組みにより、前年度比で約8%改善しました。環境保全セグメントの2014年度エネルギー原単位は、産業廃棄物の処理量増加に加え、焼却炉運転方法の改善や、省電力設備の導入により、2008年度比の約50%になりました。

● 車両燃費 (アサヒプリテック)



デジタルタコグラフを活用したエコドライブの推進や、回収ルートの見直しによる運搬効率向上など省エネルギーの取り組みを進めました。燃費低下要因となる積載重量の増加や箱型トラック導入による車体重量の増加などありましたが、2014年度の車両燃費は、前年度とほぼ同じ水準に維持することができました。

さらなる成長への挑戦。 新たな2つの成長エンジンを手に。

2014年度に手にした北米精錬事業ならびにフジ医療器をさらなる成長のエンジンとして、未来に挑戦しつづけます。

1952年

1984年

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 1952 | 大阪市に朝日化学研究所として創業 写真定着液からの銀のリサイクル事業を開始 高度経済成長にともない、商業印刷、医療など 写真感光材料に関する業界も大きく発展し、 銀の需要が拡大 | 1984 | メッキ分野からの貴金属リサイクル事業を開始 |
| 1968 | 神戸市東灘区に神戸工場建設 | 1986 | 電子材料、宝飾分野からの貴金属リサイクル事業 を開始 小型電解金回収装置「ジパング」を開発 |
| 1969 | 業界に先駆けて、独自開発による電気分解式の 銀のリサイクル装置を導入、効率的で高純度な 銀リサイクルを実現 | 1990 | 写真廃液関係以外の環境保全事業を開始 |
| 1974 | 福岡営業所を開設、以後、全国へ営業所・工場を 展開 | 1994 | マレーシアに現地法人Asahi G&S Sdn.Bhd.を 設立 |
| 1975 | 神戸市の産業廃棄物処理業許可を取得 (写真廃液無害化处理) 小型電解銀回収装置「プラタ」を開発 | 1997 | 関係会社5社を吸収合併し、「アサヒプリテック 株式会社」に社名変更 |
| 1978 | 神戸市東灘区に本社社屋を竣工 環境計量証明事業所の登録 | 1998 | 本社機能を神戸・三宮に移転 テクノセンター開設 歯科用合金製造を開始 |
| 1982 | デンタル分野からの貴金属リサイクル事業を開始 写真廃液処理市場の縮小を予見し、貴金属リサイ クル事業の多角化を決断 | 1999 | テクノセンターでISO9002の認証を取得 (2002年にISO9001に変更登録) 店頭市場に株式公開 |
| | | 2000 | テクノセンターでISO14001の認証を取得 東京証券取引所市場第二部に株式上場 |



2002年

2011年

2014年

- 2002 ● 東京証券取引所市場第一部に上場
創業50周年
- 2003 ● 中国に現地法人上海朝日浦力環境科技有限公司を設立
- 2004 ● 日本ケミテック(株)がグループに加わる
- 2005 ● 自動車触媒リサイクル事業の拡大
- 2006 ● (株)イヨテックがグループに加わる
韓国に現地法人韓国アサヒプリテック(株)を設立
- 2007 ● 東京本社を東京都千代田区丸の内に設置
(株)太陽化学がグループに加わる
- 2008 ● ジャパンウェイト(株)を設立
富士炉材(株)がグループに加わる
- 2009 ● アサヒホールディングスが持株会社制へ移行
- 2010 ● エコマックス(株)がグループに加わる
ジャパンウェイト(株) 横浜事業所を開設
韓国アサヒプリテック(株)のチュンジュ工場竣工、
デンタル事業を開始

- 2011 ● Eスクラップ事業を開始
(株)共同化学がグループに加わる
- 2012 ● (株)インターセントラルがグループに加わる
- 2013 ● 台湾に現地法人台湾アサヒプリテック(株)を設立
台湾に合併会社朝世科技股份有限公司を設立
台湾アサヒプリテック工場を開設
- 2014 ● 紘永工業(株)がグループに加わる
(株)フジ医療器がグループに加わる
ライフ&ヘルス事業を新たなセグメントとして
立ち上げる
- 2015 ● Asahi Refining がグループに加わる

アサヒウェイ

—— “この手で守る自然と資源” ——

■ わたしたちの信条

わたしたちは、独自の技術と知恵で、
次世代からの預かり物である地球の資源を守り、
環境を保全します。

■ わたしたちが企業として大事にすること

信頼と絆
安全最優先、社名より人命
革新と挑戦、なき者は去れ
利益なくして成長なし

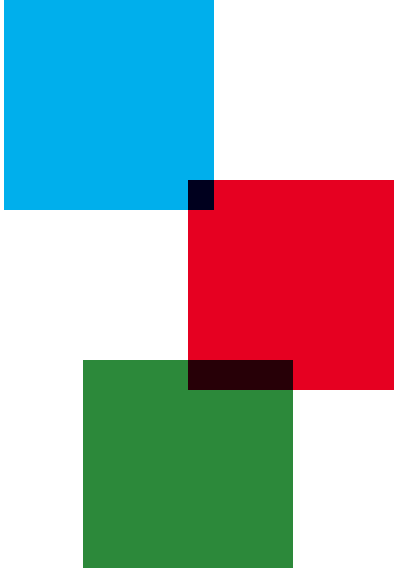
■ わたしたちが社員として守ること

明るく礼儀正しく振る舞います
考えながら迅速に働きます
悪い情報や不都合なことこそ直ちに報告します
高い目標を達成することで成長します

■ アサヒホールディングスグループの十則

- 第一則 わたしたちは、関係するすべての法令や規範に反する行為をしません。
- 第二則 わたしたちは、社会通念や自らの良心に反する判断や行動をしません。
- 第三則 わたしたちは、年齢・性別・国籍や職位にもとづく差別を行いません。
- 第四則 わたしたちは、会社や仕事に関連する場で許可なく政治活動や宗教活動を行いません。
- 第五則 わたしたちは、すべてのお客様に対し不誠実で不適切な対応やサービスを行いません。
- 第六則 わたしたちは、すべての取引において公平な競争や最適なお取引先の選定を妨げる行為をしません。
- 第七則 わたしたちは、業務上で知り得た社員やお取引先の情報、外部に公表されていない技術・財務・人事等の情報を洩らしません。また内部機密情報にもとづいた株式等の金融商品の売買を行いません。
- 第八則 わたしたちは、個人的利益に繋がる食事、接待や贈答を行わないし、受けることもありません。
- 第九則 わたしたちは、仕事でのすべての行為は全体最適のためと理解し、所属する集団や個人への利益を優先した行動や言動をしません。
- 第十則 わたしたちは、現場・現物・現実を徹底的に理解し、小さな事でも見逃しません。

アサヒホールディングスグループ各社の経営トップは、本則に反する事態が発生した時は自ら問題解決にあたり原因究明と再発防止に努めると同時に、自らを含めた厳正な処分を行います。



アサヒホールディングス株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー11F TEL:03-6270-1833
URL:<http://www.asahiholdings.com>



印刷に当たっての環境配慮について

- 用紙 森林管理協議会 (Forest Stewardship Council®) で適切に管理された森林からの原料を含む「FSC®認証紙」を使用しています。
- インキ 揮発性有機溶剤を含まない「VOCゼロ型インキ」を使用しています。
- 印刷 アルカリ性現像廃液やイソプロピルアルコールなどを含む「湿し水」を使わない「水なし印刷方式」を採用しています。

